

平成 19 年度第 2 回協議会総会議事録（案）

日 時：平成 20 年 2 月 4 日（月） 10 時 15 分～12 時 00 分

場 所：建築会館 301 号会議室（港区芝 5-26-20）

出席者（順不同、敬称略）：

担当理事 大輪 武司（芝浦工業大学）

会員代表 神谷 穹（安全工学会）、橋谷 元由（化学工学会）、
田中 良彦（空気調和・衛生工学会）、山本 倫久（計測自動制御学会）、
岡部 進（資源・素材学会）、片桐 雅明（地盤工学会）、
児玉 孝亮（電気学会）、持田 侑宏（電子情報通信学会）
大島 一哉（土木学会）、柳田 三徳（日本応用地質学会）、
百武 宏之（日本化学会）、田口 裕也（日本機械学会）、
宮沢 龍雄（日本原子力学会）、川田 昭朗（日本建築学会）、
橋本 健（日本工学教育協会）、伊藤 眞義（日本ゴム協会）、
村松 隆（日本材料学会）、正岡 孝治（日本船舶海洋工学会）、
美濃部 正夫（日本分析化学会）、千田 哲也（日本マシエンゾエンジニアリング学会）、
関田 真澄（日本冷凍空調学会）、脇本 優（プレストレストコンクリート技術協会）

運営会議委員（会員代表との重複を除く。）

池田 駿介（東京工業大学）、川島 一彦（東京工業大学）

オブザーバ 石川 隆章（環境システム制御学会）

事務局 柳川 隆之

配布資料：

G19-2-1：平成 19 年度第 1 回協議会総会議事録（案）

G19-2-2：平成 19 年度第 2 回運営会議議事録（案）

G19-2-3：日本工学会 CPD 協議会での覚書と標準化ガイドライン項目について

G19-2-4：ECE WG の中間報告（川島主査）

G19-2-5：環境システム制御学会からの入会申込み書

議 事：

桑原協議会長が急に欠席となったため、日本工学会を代表して池田副会長から、CPD の新しい方向について検討の中間報告をし会員の意見を求めることを目的として今回の総会を開催する旨の挨拶が行われた。その後、大輪理事の司会のもとに議事が進められた。

1. 平成 19 年第 1 回日本工学会 CPD 協議会総会事録案の確認

大輪理事から、昨年 7 月 19 日に開催された平成 19 年度第 1 回日本工学会 CPD 協議会（以下では CPD 協議会と記す。）総会の議事録案が説明され、異議なくこれを確認した。更に、同理事から平成 19 年度日本工学会定時総会で承認された CPD 協議会の事業計画の骨子、および昨年 12 月 25 日に開催された CPD 協議会運営会議の議事の概要が説明された。

2. 平成 19 年度 WG からの中間報告

平成 19 年度に組織された CPD および ECE の 2 つの WG のこれまでの活動報告が、そ

れぞれ、大輪主査および川島主査から行われた。

1) CPD WG

この WG では、学協会で実施している CPD に関する情報を標準化して交換を助けることを目的として、標準化のガイドラインを定めることと、その実施のために学協会間で協定書を結ぶことについて検討を行ってきた。ガイドラインは、昨年度までの検討結果をもとに、情報システム、受講証明書、受講実績の集積、審査、プログラム識別コード、CPD 学習の各々について定める計画であり、今年度末の協議会総会に提案できるようにする予定である。覚書は来年度に締結する予定である。

2) ECE WG

この WG では、先ず従来の CPD に対する ECE の定義を行うことを目的に、現在の CPD で何が足りないかということから検討をスタートした。現在までに、ECE の基本コンセプトおよびこのコンセプトに合致する現行のプログラムの有無の調査検討を行い、一応の結論を得た。今後は、企業や技術者のニーズを調査し、ECE のコンセプトを更に固め、分野ごとの ECE の特徴を明確にし、その実施における日本工学会の役割を示すことを目指す予定である。

この中間報告をもとに、WG 活動の進め方について審議を行った。審議の内容は次の通りである。(⇒は質問に対する回答を示す。)

- * CPD WG で検討している覚書はいつごろの締結を目指すのか？(美濃部) ⇒来年度前半を目指す。(大輪)
- * ガイドラインは汎用のものか？(美濃部) ⇒各協議会や学協会の共通項を示すものであり、個別の事項は各々に任せるべきと考えている。(大輪)
- * 分野別協議会の結成は各学協会に任せるのか、工学会で働きかけるのか？(美濃部) ⇒化学分野では協議会結成の動きはない。(橘谷、百武)
- * 横断的な性格の学協会がどういった分野別協議会に入るのかよくわからないが、協議会編成のガイドラインを作ってもらえるか？(山本) ⇒先行している建設系 CPD 協議会の事例が役立つと思われる。要望があればいつでも情報を提供する。分野が近い学協会が連携のニーズを感じ協議会を結成するというのが一番良いのではないかと。分野別協議会のニーズが存在しない状態で、日本工学会が分野別協議会の設置を働きかけることには意味がないと思われる。(川島) 電気電子情報系も連携のニーズがあって協議会をスタートした。ボトムアップのニーズに基づいて活動している。計測自動制御学会の参加を歓迎する。(持田)
- * 建設系 CPD 協議会に参加しているのは 13 学協会である。それでも束ねるのは大変である。分野が近いといっても、学協会間で相当の考え方や慣行、CPD の特性等の違いがあり、一体的に運営できるようになるまでには、相当の努力が必要であった。また、常に新しい問題も発生し、これに对应していくこともなかなか大変である。日本工学会も分野別協議会の結成をうながしてゆかないとまとめきれないであろう。(川島)
- * 日本工学会の会員でない学協会に参加を呼びかける場合には、分野別協議会に入らなくてよいのか？(宮沢) ⇒日本工学会の会員にならなくてもよい。(大輪)
- * 会費の問題があり、日本工学会の会員にならなくても、CPD 協議会の会員にならなくてよいのか？(児玉) ⇒今後の課題とする。(大輪)
- * CPD と名づけた教育プログラムが多数存在するなかで、CPD 協議会認定という冠をつけて質を保証するとよい。これが日本工学会の役目である。(岡部) ⇒日本工学会

マークをつける方向にしたい。どこまで質の保証ができるかは不明だが、各分野別協議会や学協会のやり方を尊重し、これらが情報を共有できるように働きかけたい。(大輪)

- * 建設系 CPD 協議会の年間のプログラム数は 2000 を越え、個々のプログラムは審査できない。分野別学協会群や学協会の機関認定をし、これらの活動を尊重する方向がよい。会員学協会を信頼しないとうまく進まない。(川島)
- * CPD マークをつけるのは、各学協会に任せるのか、日本工学会に届けるのか？ ()
⇒機関認定という方法になる。そのガイドラインは作る。(大輪)
- * ECE は 3 つの型 (トップセミナー型、カッティングエッジ型、研究開発能力開発型)のうちどれに絞るのか？ (児玉) ⇒まだそこまで絞り込みをしていない。検討の初期の段階であるから、できるだけ絞り込みは後にし、間口を広げて検討していきたい。企業ニーズの調査や協議会会員の意見を聞いて詰めてゆく。(川島)

審議の時間が限られたため、他に意見があれば事務局に伝えることになった。

3. 環境システム制御学会の入会申込の承認

全会一致で入会を承認し、理事会の承認を求めることとなった。

最後に、池田副会長から、「日本工学会の役割は、分野別協議会や独立学協会の間の言葉やシステムが通じあうような大きな方向性を示し、最もよい制度を作ってゆくことである。日本工学会もよい活動を行っているので、支援をよろしく願いたい。」との挨拶が行われた。

以上